



2021年（令和3年）10月27日

**2036年に完成予定の帝国ホテル 東京 新本館
デザインアーキテクトとして
ATTA・田根 剛氏の起用を決定**



Image: Atelier Tsuyoshi Tane Architects

「田根剛氏による帝国ホテル 東京 新本館イメージパース」

※検討段階のものであり今後行政協議等により変更となる可能性があります

株式会社帝国ホテル（代表取締役 定保英弥）は、2036年に完成予定の帝国ホテル東京 新本館建設に向け、フランス在住の建築家 田根剛氏（ATTA- Atelier Tsuyoshi Tane Architects）のデザイン案を採用いたします。



当社は本年3月25日に、帝国ホテル 東京（本館・タワー）の建て替え計画の実施方針を決定しました。このうち、本館については、建て替えの実施時期を2031年度～2036年度（予定）、単独棟のグランドホテルの建設を予定しています。

【帝国ホテル 東京 建て替え計画】

帝国ホテルは、1890年（明治23年）、日本の近代化を推進する明治政府の国策により、海外貴賓を遇する迎賓館として、初代会長である渋沢栄一の「社会の要請に応え、貢献する」という信念とともに開業しました。

初代本館の風格ある洋風建築は、隣接する鹿鳴館とともに西欧化を目指す日本のシンボルとなりました。近代建築の雄たるフランク・ロイド・ライトにより設計され、1923（大正12）年に開業した2代目の本館は、通称「ライト館」と呼ばれ、首都東京の近代化を先導した歴史的建築物でありました。そして1970（昭和45）年に大阪万博を機に建て替えられた現在の本館、また1980年代の高度利用・複合化の先進事例となった1983（昭和58）年開業の帝国ホテルタワーなど、現在に至るまで、それぞれの時代に於いて国際的ベストホテルを目指す企業として最高の施設であるべく努めてまいりました。

本計画は、この先の100年・200年も「メイド・イン・ジャパン」のホテルとして、その中心的存在であり続けるための4代目新本館建築計画となります。

【デザインアーキテクト選考の経緯】

選考にあたっては、当社が新本館に求める「品格・継承・挑戦」という3つのキーワードといくつかの条件のもと、国際的に活躍する国内外の建築家を候補にコンペティションを実施。帝国ホテルの歴史・理念を十分に把握し、ビジネス・文化・交流の中心地である日比谷地区で、次世代の日本のホテル文化をリードする「新しいグランドホテル・迎賓館」にふさわしく、近景、遠景、どこから見ても「ザ・ホテル」の顔・存在感や独自性を体現するデザインを共に創り上げることができる建築家からの提案を求めました

【コンセプトは「東洋の宝石」】

田根氏は、独自のアプローチである考古学的（Archaeological）リサーチにより、帝国ホテルのみならずホテル業そのものを考察。賓客を迎え入れる「宮殿」の構えと人類の進歩の証である「塔」を融合することで、唯一無二かつ新しい迎賓館にふさわしく、首都の中心に燦然と輝く存在として、ライト館を形容する言葉として使われた「東洋の宝石」を継承し、未来につなげるコンセプトを提案されました。

当社は、田根氏の「帝国ホテルの歴史を深く考察し、それに立脚して未来につながる建物を造る」というアプローチ姿勢を高く評価。さらに、これまで田根氏がプロジェクト毎に全く異なるデザインによってオリジナリティを表現されていることから、当社の独自性を創出してくれることへの期待と、才能ある若手建築家とともに未来の帝国ホテルを創るという気概を示していきたいという見地から、田根氏の起用を決定し、現在も協議を重ねております。

□ 田根 剛（たね つよし）

Atelier Tsuyoshi Tane Architects 代表 | パリ・フランス

建築家。1979年東京生まれ。Atelier Tsuyoshi Tane Architects を設立、フランス・パリを拠点に活動。場所の記憶から建築をつくる「Archaeology of the Future」をコンセプトに、現在ヨーロッパと日本を中心に世界各地で多数のプロジェクトが進行中。主な作品に『エストニア国立博物館』『新国立競技場・古墳スタジアム(案)』『弘前れんが倉庫美術館』『アル・サーニ・コレクション財団美術館（2021秋完成予定）』など。フランス文化庁新進建築家賞、ミース・ファン・デル・ローエ欧州賞2017ノミネート、フランス国外建築賞2021グランプリ、第67回芸術選奨文部科学大臣新人賞など多数受賞。著書に『TSUYOSHI TANE - Archaeology of the Future』（TOTO出版）など。www.at-ta.fr



Photo: Yoshiaki Tsutsui

【ご参考】帝国ホテル 建て替え計画について（2021年3月25日発表）

本計画の概要

- (1) 建て替え対象となる建物の所在地：
東京都千代田区内幸町一丁目1番1号
- (2) 建て替え対象となる建物：
帝国ホテル東京 本館、タワー館及び駐車場ビル（延床面積合計 239,780 m²）
- (3) 本計画の方針：
 - ①経緯・目的
 - ・日本の迎賓館の役割を担い1890年に開業し、2020年11月3日で開業130年を迎えた帝国ホテルは、その役割を継続すべく数度の建て替えを行ってまいりました。
 - ・旗艦ホテルである帝国ホテル東京は、3代目の建物である本館の建物が、竣工から50年を経過しており、また、1983年に開業したタワー館に関しましても竣工から38年が経過しております。
 - ・当社も所在する内幸町一丁目街区は、2019年に国家戦略特別区域会議にて東京都の都市再生プロジェクトに位置付けられており、当社を含む関係権利者10社間においてまちづくりに関する議論を進めてまいりました。
 - ・現在はコロナ禍で経営環境は厳しく、先行きが不透明ではあるものの、日本を代表するホテルとしての社会的使命をこの先も引き続き全うしていくべく、アフターコロナを見据えた将来性のある企業価値向上への取り組みとして、今般、建て替え計画の実施方針を決定いたしました。
 - ・本計画を実施した際には、建て替え後の新しいホテルにおいても日本の迎賓館としての役割を果たし、SDGs達成への貢献などの社会的責任に基づいた経営を実践し続けることで、日本が世界に誇るグランドホテルとしてのブランド力の更なる向上を図るとともに、メイド・イン・ジャパンのホテルとして、これからも日本のおもてなしを体現してまいりたいと考えております。
 - ②継続営業
 - ・顧客の利用環境を絶やさず、また雇用とノウハウを維持し、帝国ホテルの歴史を継承していくためにも、建て替え期間中も帝国ホテル東京としてのホテルの営業は継続することを計画しています。

(4) 建て替え後の建物の主要用途等：

	新本館	新タワー館
敷地面積	約1.2ha	約1.1ha
主要用途（予定）	グランドホテル	オフィス、商業、 サービスアパートメント等
建て替え実施時期 （予定）	2031 年度～2036 年度予定	2024 年度～2030 年度予定

(5) 総事業費規模（概算）：

約2,000 億円から約2,500 億円程度を見込んでおります。

※総事業費規模は概算額であり、今後の関係諸機関との協議や本計画の詳細決定等を受けて、今後変更される予定です。